

「臨床整形外科」最優秀論文賞 2015 発表

このたび、「臨床整形外科」最優秀論文賞を設け、整形外科領域に関する独創的で優れた論文を表彰することとなりました。昨年1年間(2015年、50巻)に掲載された投稿論文を対象に、編集委員会による厳正な審査のもと、下記論文の受賞が決定いたしました。

「頸椎椎弓形成術後の後弯化と椎弓再閉鎖の危険因子 —頸椎矢状面バランスに着目して—

坂井顕一郎・他(済生会川口総合病院)

50巻7号: 621-628

■受賞のことは

このたびは「臨床整形外科」最優秀論文賞 2015 に選出いただき誠にありがとうございます。

頸椎症性脊髄症に対する椎弓形成術は、比較的安全に行え、長期成績も安定していることから、本邦で最も広く行われている術式です。ただ、一部の症例において術後に後弯化や椎弓再閉鎖が起り、成績不良の原因となっています。それらを術前に予想することはできないかと考え、本研究では後弯化と椎弓再閉鎖の危険因子を検討しました。その結果、術前の頸椎矢状面バランス不全が両者の危険因子であることがわかりました。頸椎矢状面バランスは、成人脊柱変形における重心線を考慮した全脊柱バランスの概念から近年提唱されたもので、新しい知見として提示できたのではないかと考えています。この知見が皆様の今後の術式選択の一助になれば幸いです。

本研究は、東京医科歯科大学 大川淳教授、済生会川口総合病院 佐藤浩一顧問、新井嘉容主任部長、脊椎スタッフの皆様のご指導、アドバイスの賜物と考えております。この場をお借りして深謝いたします。



坂井顕一郎氏

本論文は、2016年4月1日から2017年3月31日まで1年間、医学・看護の電子ジャーナルサイト MedicalFinder 内において無料で閲覧いただけます。

受賞者には賞状と金一封、1年間の本誌冊子版と電子版閲覧権を贈呈します。なお、「臨床整形外科」最優秀論文賞 2016 は、51巻1〜12号(2016年)の掲載論文が対象となります。奮ってご投稿ください。